春に花を咲かせる11月からの作業手順とコツ

2026年11月3日 by 栗山

高つきレモン

11月～2月頃にかけて、レモンの木の中では目に見えない**花芽分化（来春に花になる芽を作るプロセス）**が行われます。たくさんの花を咲かせるために、**栄養成長**から**生殖成長**に**スイッチを切り替えます**。

来春に花を咲かせるための4つのポイント（３年生～成木が対象）

1. 枝の誘引（紐で寝かせる具体的な方法）

上向きにピンと伸びた元気な枝は、植物ホルモン（ジベレリン）の働きで葉ばかりを増やそうとします。これを紐で引いて横に寝かせることで、成長の勢いを抑え、一気に花芽を着きやすくします。

誘引する枝の選び方：

今年伸びた枝のうち、**太くて上に向かって勢いよく伸びている枝（徒長枝）**をターゲットにします。

紐の結び方と固定の手順：

枝側は緩く結ぶ： 麻紐や園芸用の柔らかい紐を用意します。枝の先端に近い部分に紐をかけますが強く結ぶと食い込んで枝を痛めるため、**「もやい結び」などで輪っかを作り、枝が太くなっても余裕があるように**します。

角度の目安： 枝を折らないように注意しながら、ゆっくりと引き下げます。地面に対して**15度～20度ほど斜め下へ傾ける（水平より少し上、または「平行誘引」を意識する）**のがベストです。

地面側での固定： 地植えの場合、地面に「園芸用のペグ（杭）」を打ち込むか、太い幹の低い位置、あるいは近くに立てた支柱（ステーキ）に紐の反対側を結んで固定します。

注意点： 太い枝は無理に曲げると根元から裂けることがあります。

一度に下げようとせず、何回かに分けて少しずつ紐を締め直して角度をつけていくと安全です。

2. 不要な夏秋梢（かしょう）の剪定

レモンは春・夏・秋と芽を出しますが、秋の時点で最優先すべきは、木全体の風通しと日光を確保し、**「春に伸びた健康な枝（春梢）」に十分な日光を当てること**です。

切るべき枝： 夏～秋にひょろひょろと伸びた**未熟な枝（夏秋梢）や、花を咲かせない長すぎる無駄な枝（不実伸長枝）は、付け根から剪定ハサミで間引きます**。これらは冬の寒さで傷みやすく、残しておくと無駄に栄養を消費してしまいます。

残す大切な枝： 充実した**「春梢」は、来春に花を咲かせる一番大事**な土台です。これらは絶対に切らずに大切に残してください。

3. 水やりの乾燥ストレス

秋～冬の管理： 水が豊富すぎると木が安心してしまい、生長（枝葉を伸ばすこと）にばかりエネルギーを使ってしまいます。雨が降らずに**土がカラカラに乾ききっている時以外は、水やりはやめてください**。

効果：「少し水が足りないかな？」という適度な乾燥ストレスを木に感じさせることで、生き残り（子孫繁栄）のスイッチが入り、11月～2月の花芽分化が促されます。

4. 肥料11月のコントロールと成分バランス

葉っぱが青々と茂っているのに花が咲かない場合は、窒素（N）が多すぎるサインです。

理想の成分バランス：

秋～冬の終わりまでは、葉や枝を伸ばす「窒素（N）」をグッと控えめにし、

花や実を着きやすくする「リン酸（P）」や、**根を強くする「カリ（K）」**が強化された肥料を意識します。また、土壌の環境としては**pH 6.0前後の弱酸性**がレモンの育成に最適です。

選ぶ際のおすすめ：

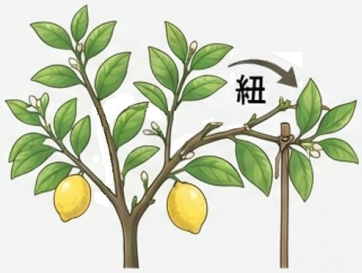
「柑橘・みかん用の肥料」として売られているもので、成分比率（N-P-K）の真ん中の数字（P：リン酸）が大きいものを選びます。もし、すでに葉が茂りすぎていると感じる場合は、冬の間の追肥は控えめ、または窒素ゼロのリン酸・カリ単体の肥料（骨粉など）を検討するのも手です。

なお、春から秋の成長期には、成分をしっかり行き渡らせるために**「ハイポネックスなどの液肥を1000倍に希釈して週1回程度与える」**のが効果的ですが、寒くなる冬の間（休眠期）は液肥の与えすぎに注意し、お休みさせてあげてください。

by 栗山
高つきレモン

来春にレモンの花を咲かせる！重要ポイント4選

1. 枝の誘引（枝を横に寝かせる）



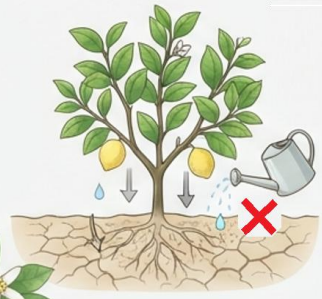
上向きの枝を紐で誘引し、横に寝かせることで、木の生長を抑えて花芽を付きやすくします。

2. 不要な夏秋梢の剪定



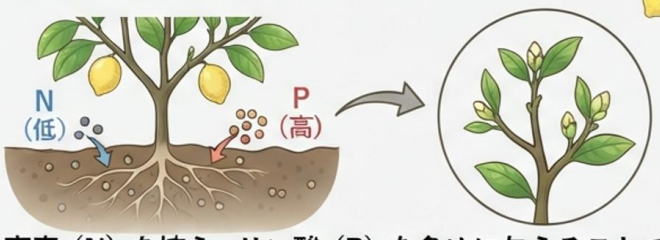
夏から秋に伸びた枝（夏秋梢）を間引きます。春に伸びた健康な枝を残すことが、翌年の開花に繋がります。

3. 水やりを控えめに（乾燥ストレス）



秋から冬は水やりを控えめにし、適度な乾燥ストレスを与えることで、木が花を咲かせる準備を始めます。

4. 肥料のコントロール



窒素（N）を控え、リン酸（P）を多めに与えることで、枝葉の成長よりも花芽の形成を促進させます。